

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500675
法人名	介護センター 田中
事業所名	グループホーム 渚園
所在地 (電話番号)	津市柳山津興382-4 (電話) 059-227-7737
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年5月23日(水)

【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年11月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	11人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

(2)建物概要

建物構造	第1ユニット 鉄骨 造り	第2ユニット 木造平屋 造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000~60000 円	その他の経費(月額)	200 円~
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	はぎの医院、永井病院、後藤歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>管理者のリーダーシップのもと、職員が認知症ケアのプロである意識・知識を持っており、利用者がホームで生活されるサポートだけでなく、その人らしく自立した暮らしを支えていく介護が実践されている。行政、医療機関との連携もよく、信頼も厚い。管理者が三重県のグループホーム連絡協議会の会長であり、模範となる介護がなされている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービスの改善につなげることは、職員のミーティングで話し合いがされ、実行されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめて報告された。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の中のホームとして防災をテーマに話し合われた。ホーム内にある医院が、地域避難場所に指定され、ホームの役割など、地域住民との協力体制を徐々に構築されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問を積極的に働きかけ、触れ合う時間を作っている。家族が同行する一泊旅行では、利用者や家族と本音で話ができる機会になっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会、老人会に加入し、地域の人との交流を図っている。散歩や買い物など、外出の機会を多くして、また、地域の行事には参加し、ホームの家庭菜園作りでは地域の人との協力を得ている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしく自立した暮らしを支援することを目指し、理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護の現場では、理念が共有化され、毎日の日課で散歩に出掛け、外の空気を肌で感じてもらい、近隣の人のふれあいを大事にした介護が実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会へ加入している。老人会ではゲートボールを楽しんだり、また、畑仕事を手伝ってもらったり、日常的に交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングなどで話し合わせ、外部評価をもとに改善計画を立て、取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、老人会長、民生委員、市の担当職員、家族会の代表が運営推進会議のメンバーで、2ヶ月に1回開催している。テーマを決めて話し合いが持たれ、今回は防災について話し合われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は県のグループホーム連絡協議会の会長で県の職員とは設立当初から連携している。また、運営推進会議を通じて、市の担当職員とも連携し、共にサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはできるだけ訪問して、様子を見てもらう方針である。遠方の家族へはメールで通信している。定期的に「ホームだより」や金銭出納の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族同伴の一泊旅行を実施している。利用者、家族、職員と一緒に過ごす中で、それぞれの想いを聞く機会になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんど異動(退職)はないが、新規に職員を採用すると、管理者の指導のもと、違和感なくホームにとけこんで利用者との関係もスムーズにいけるようサポートしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の必要性は十分認識され、研修への参加は行われている。働きながらではあるが、職員の資格取得にも積極的に取り組んでいる。介護支援専門員、介護福祉士、さらに認知症ケア専門士の資格を取得し、レベルの向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームと連携し、市の施設を借りて、利用者のコンサートを開催している。利用者、職員の交流の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居で、利用者にホームに馴染んでもらい、利用者の思い、家族の希望を取り入れながら、ホームでの暮らしの継続につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いろいろな場面で職員は傾聴し、話を聞く姿勢である。ホームの床は必ず毎朝モップを使わず、雑巾がけの掃除を利用者、職員と一緒にされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに本人の思い、家族の希望が記載され、支援の方針としてプランに反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思い、家族の希望を踏まえ、職員のミーティングで話し合いを持ち、介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しをし、変化があれば随時されている。職員の気づき、利用者、家族の希望を取り入れ、臨機応変に対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参り、外泊、一泊旅行など、利用者の希望に応じた支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携により、適切な医療を受けられるよう支援され、認知症の専門医から意見が聞ける体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方には、利用者、家族等やかかりつけ医と話し合い、方針を全員で共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重され、言葉かけには注意をされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に作成された「したいことシート」「できることシート」を活用し、一人ひとりにそったケアが実践されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、季節を感じるよう工夫されている。利用者自身がご飯の盛り付けをされ、また、食材の魚の話題等、職員と楽しそうに話されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回実施されている。畑仕事などで汗をかいた時等、臨機応変にシャワー浴等している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年1回家族と一緒に一泊旅行が一番の楽しみである。また食事の片付けや掃除、洗濯物たたみにはそれぞれ役割があり、これらをすることで張り合いを持ってもらうサポートがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩や、利用者の希望にそった買い物等、戸外へできるだけ出かける支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりに寄り添った介護が実践されており、鍵をかけることはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの同一敷地内の医院が、この地域の避難場所に指定されている。海に近く、災害時にすぐ避難できるよう、日頃から話し合いがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好まれる食事に心がけ、水分量等も一日を通じて把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は入りやすく、家庭的な感じを受けた。所々に花や、利用者が作られた額など掲げられ、心地よく過ごせる工夫がなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を置かれ、馴染みの人形が飾られ、癒される感じであった。		